

現代日本語における対応する動詞形を持たない
「V1+V2 型複合名詞」の辞書に基づくリスト化
- 「*立ち読む」の形を持たない「立ち読み」などの複合名詞はいくつあるのか-

キーワード：V1+V2 型複合名詞、複合動詞、品詞の転成、辞書、リスト化

東京外国語大学 留学生日本語教育センター 鈴木 智美

tmsuzuki@tufs.ac.jp

本発表の目的は、「動詞1+動詞2」の形をとる複合名詞（以下「V1+V2 型複合名詞」）のうち、現代日本語において対応する複合動詞の形がないもの（「読み書き」「立ち読み」など）を網羅的にリスト化し、そこにどのような複合名詞が含まれるのかを考察することである。

語構成論研究では、このような複合名詞の存在は従来指摘されており、その前項動詞と後項動詞の意味的關係を詳細に検討した先行研究はあるものの、対象となる複合名詞そのものは一覧としては示されていない。日本語教育研究では、学習者にとって習得の難しいと言われる複合動詞については多くの研究が行われているが、このような複合名詞は特に取り上げられていない。

本研究では、総合的な国語辞書（『大辞林 第三版』）をもとに、このような「V1+V2 型複合名詞」を網羅的に抽出し、リスト化を行った。対応する動詞形が存在するか否かについては、『日本国語大辞典 第二版』にもあたり、確認を行った。その結果、対応する動詞形を持たない「V1+V2 型複合名詞」は、全499語抽出された。それらをゆるやかに分類すれば、現代語として分野の偏りなく用いられるもの（164語）、使用される分野が特定されるもの（250語）、古語の性格が強いなど現代語としては日常的に用いられないもの（85語）が含まれる。

また、以下のような興味深い点が明らかになった。まず、このタイプの複合名詞には、辞書の見出し項目にはないものの、現代日本語として既に使用されていると考えられるものがある（「試し書き」「飛ばし読み」等）こと。また、辞書に基づいて確認すると対応する動詞形はあるものの、現代日本語としてそれが日常的に使用されるとは思われないものが150語以上観察される（「居眠り」「駆け落ち」「重ね着」等）こと。さらに、動詞から名詞への品詞の転成とは逆に、「V1+V2 型複合名詞」から、対応する動詞形が新しく生まれているのではないかと考えられるものがある（「着回す」「下げ止まる」等）ことである。

本研究は、対応する動詞形を持たない「V1+V2 型複合名詞」の網羅的なリストを作成することで、語構成論研究においてはその研究の基礎資料を提供し、現代日本語の語彙のありようを動的に考える上での興味深い例を提示する。日本語教育研究においては、複合動詞研究を側面から補完する研究成果を示すものと位置付けられる。